

## 令和4年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和4年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和4年4月19日(火)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 99人

② 数学 99人

③ 理科 99人

#### 5 留意事項

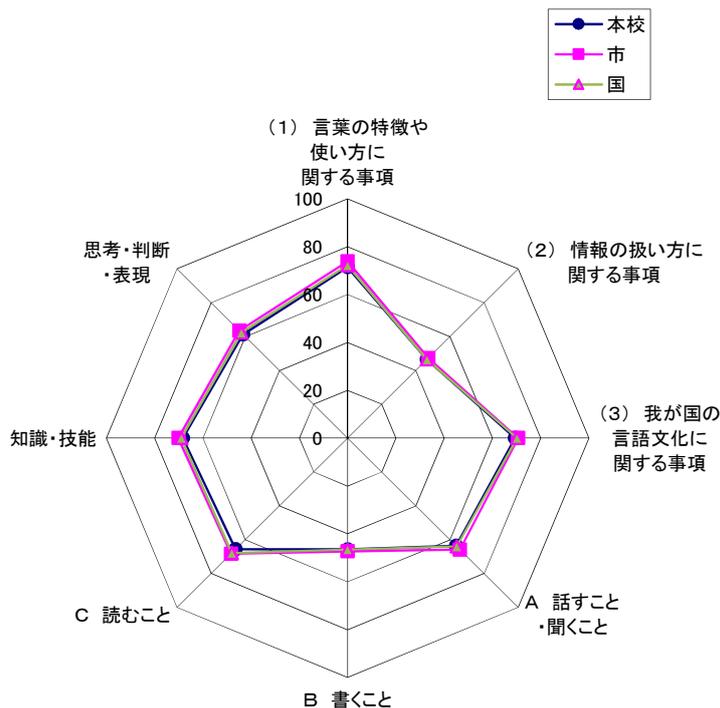
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

# 宇都宮市立河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	71.4	73.8	72.2
	(2) 情報の扱い方に関する事項	46.5	47.3	46.5
	(3) 我が国の言語文化に関する事項	69.4	70.7	70.2
	A 話すこと・聞くこと	63.6	65.9	63.9
	B 書くこと	46.5	47.3	46.5
	C 読むこと	65.7	68.3	67.9
観点	知識・技能	68.3	70.2	69.0
	思考・判断・表現	61.4	63.6	62.3
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

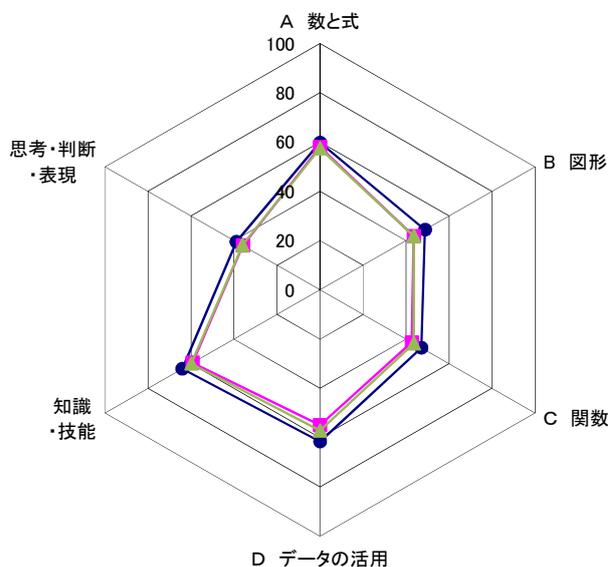
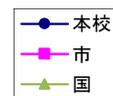
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項	○漢字を書くことと助動詞の働きについて理解し、目的に応じて使うことについての設問の正答率は、全国平均をそれぞれ4.3ポイント、1.5ポイント上回った。 ●表現の技法について理解する設問及び事象や行為、心情を表す語句について理解する設問の正答率は、全国平均をそれぞれ9.1ポイント、2.2ポイント下回った。	・漢字を書くことについては、引き続き漢字テスト等を通して、定着を図る。 ・表現技法については、その効果も含め文章読解の際解説を加えると共に、注意を促すよう指導する。また、読書等を通して言葉を広げるよう助言し、語彙力を高めさせる。
(2) 情報の扱い方に関する事項	○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く設問についての正答率は、全国平均と同程度であった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く設問についての無回答率が8.1%であり、全国平均は上回ったものの、市の平均は下回った。	・意見文を書く際に構成を意識させることで文章を書くことについての抵抗感を少なくさせる。 ・新聞等を読み、様々な情報を入手することが、意見文を書く際の材料になることを助言する。
(3) 我が国の言語文化に関する事項	○漢字の行書に読みやすい書き方について理解する設問及び漢字の行書とそれに調和した仮名の書き方を理解する設問の正答率は、全国の正答率をそれぞれ2.8ポイント、3.7ポイント上回った。 ●行書の特徴を理解する設問については、全国の正答率を9.1ポイント下回った。	・書写の時間に、字を整えて書くことや漢字と仮名のバランスは引き続き指導することに加えて、それぞれの書体の歴史的背景や特徴についての説明を加えることで、理解を深めさせる。
A 話すこと・聞くこと	○論理の展開などに注意して聞く設問については、全国の正答率を5.6ポイント上回った。 ●聞き手の興味・関心などを考慮して、表現を工夫する設問については、全国の正答率を7ポイント下回った。	・話し合いにおいて、聞いたことを踏まえて、そこから自分の考えを述べるのが苦手な生徒が多いことがうかがえる。話し合いの中で、話題や聞き手の興味関心を意識しながら、自分の考えを発言するという議論の進め方を踏まえた技能を身に付けさせるような指導をしていきたい。
B 書くこと	○自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く設問についての正答率は、全国平均と同程度であった。 ●自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にして書く設問についての無回答率が8.1%であり、全国平均は上回ったものの、市の平均は下回った。	・今までの学習を踏まえ、説得力のある意見文を書くための構成を確認させ、字数を指定して文章を書く機会を増やしていきたい。そして、新聞等を活用し情報を入手することで、様々な課題に対応した自分の考えが書けるように指導していきたい。
C 読むこと	○場面の展開や登場人物の心情などについて、描写を基に捉える設問についての正答率は、全国平均と同程度であった。 ●場面と場面、場面と描写などを結び付けて、内容を解釈する設問についての正答率は、全国平均を4.1ポイント下回った。	・今後も読む力をつけていくために、文脈における語句の意味や登場人物の言動や情景描写に注意した読み取りを続けていきたい。特に、登場人物の心情を読み取る際には、言動・及び情景描写と関連させるなど様々な角度からの読み取り方を指導していきたい。

# 宇都宮市立河内中学校第3学年【数学】分類・区別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	59.8	58.0	57.4
	B 図形	48.8	43.6	43.6
	C 関数	47.1	42.7	43.6
	D データの活用	61.6	54.9	57.1
観点	知識・技能	64.1	59.3	59.9
	思考・判断・表現	39.0	35.9	36.2
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

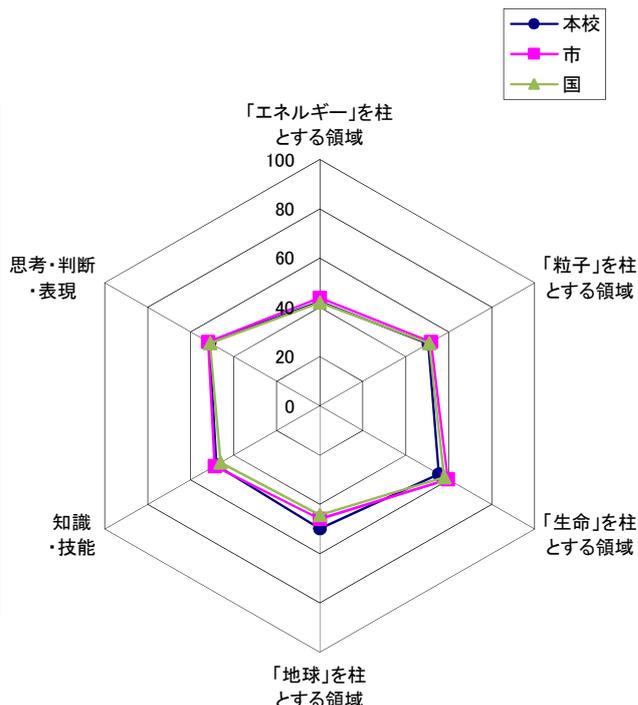
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	<p>平均正答率が宇都宮市の平均よりも1.8ポイント、栃木県の平均よりも5.0ポイント、全国よりも2.4ポイント高い。</p> <p>○「差が4である2つの偶数の和が4の倍数になることの説明を完成する」の正答率は、全国より10.9ポイント、栃木県より9.6ポイント高い。また、「連立二元一次方程式を解く」では、全国より8.3ポイント、栃木県より10.4ポイント高い。</p> <p>●「42を素因数分解する」の正答率は、全国より10.8ポイント低く、既習事項を忘れてしまった生徒が多い。</p> <p>●「説明を完成する」問題では無回答の生徒が多く、「ある偶数との和が4の倍数になる数について、予想した事柄を表現する」では、29.3%が無回答で全国より3.1ポイント上回っている。</p>	<p>領域としては、全国・栃木県・宇都宮市より正答率が高いが、数学的語句の意味を忘れてしまったり分からない問題には取り組まなかったりする生徒が見られる。</p> <p>今後は、計算問題などのドリル学習を充実させるだけでなく、生徒同士の学び合いの場面で数学的用語を用いて計算方法を説明し合う活動を多く取り入れていきたい。また、文字式を利用して説明する問題に対して苦手意識が強くないように、生徒同士の学び合い活動を充実させていきたい。</p>
B 図形	<p>平均正答率が宇都宮市の平均よりも5.2ポイント、栃木県の平均よりも6.2ポイント、全国よりも5.2ポイント高い。</p> <p>○「反例の意味」を問う問題では、全国より9.6ポイント、栃木県より10.7ポイント高い。また、「証明で用いられている三角形の合同条件を書く」問題では、全国より7.6ポイント、栃木県より8.0ポイント高い。</p> <p>●「筋道を立てて考え、事柄が成り立つ理由を説明する」問題の正答率は11.1%で、全国よりも1.4ポイント低く、無回答率が41.4%と多く、全国より2.9ポイント、栃木県より4.4ポイント上回っている。</p>	<p>三角形の合同条件を正しく覚えている生徒は多いが、三角形の合同条件を利用して証明問題を解くことは苦手である。特に、穴埋め式の証明ではなく最初から最後まですべてで考えるような問題では正答率が低くなる傾向がある。</p> <p>今後は、基本的な証明問題を取り上げ、図形の見方や条件の記入の仕方、筋道を立てた証明の書き方など、一つ一つ丁寧に指導していきたい。また、基本的な問題に数多く取り組ませ、自力解決ができる喜びを味わわせたい。</p>
C 関数	<p>平均正答率が宇都宮市の平均よりも4.4ポイント、栃木県の平均よりも5.2ポイント、全国よりも3.5ポイント高い。</p> <p>○「変化の割合が2である一次関数の関係を表した表を選ぶ」問題では、全国より4.5ポイント、栃木県より8.2ポイント高い。また、「座標を書く」、「問題解決の方法を数学的に説明する」問題でも、全国より3.0ポイント、栃木県より3.7ポイント高い。</p> <p>●「問題解決の方法を数学的に説明する」問題の無回答率が30.3%と高く、全国より5.9ポイント、栃木県より5.7ポイント上回っている。</p>	<p>関数の学習に苦手意識をもっている生徒が多く、自力解決ができるまでじっくりと考えたり、友達と学び合ったりする習慣がまだ身に付いていない傾向がある。</p> <p>今後は、小学校で学習した比例・反比例の学習内容から丁寧に復習し、表やグラフの見方、読み取り方、式の表し方などを指導していきたい。また、学習内容の定着を図るため多くの課題に取り組み、各自がどこで分からなくなっているのかを明確にして、自力解決ができるようにして、解ける喜びを味わわせたい。</p>
D データの活用	<p>平均正答率が宇都宮市の平均よりも6.7ポイント、栃木県の平均よりも6.8ポイント、全国よりも4.5ポイント高い。</p> <p>○「箱ひげ図から分布の特徴を読み取る」問題では、全国より7.4ポイント、栃木県より9.3ポイント高い。また、「容器のふたを投げたときに下向きになる確率を選ぶ」では、全国より4.6ポイント、栃木県より4.5ポイント高く、「データの傾向を数学的な表現を用いて説明する」の問題でも、全国より1.5ポイント、栃木県より6.6ポイント正答率が高い。</p>	<p>4つの領域の中で平均正答率が最も高く、61.6%であった。平均正答率はすべての問題で、全国、栃木県より高いが、他の領域の問題と比べ、単元間で関連する内容が少なく、すべての学年で年度末に学習する内容のため、意識的に取り組まなければ忘れてしまう生徒もいる。</p> <p>今後は、数学の授業だけでなく普段の生活にも取り入れ、学校やクラスのアンケート調査の結果や傾向分析などをICTを活用して、データの活用を充実させていきたい。また、学習した内容を日常生活に生かしていけるように工夫していきたい。</p>

# 宇都宮市立河内中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

## ★本年度の国、市と本校の状況

### 【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	42.3	43.8	41.9
	「粒子」を柱とする領域	50.5	51.8	50.9
	「生命」を柱とする領域	55.4	59.6	57.9
	「地球」を柱とする領域	49.8	45.9	44.3
観点	知識・技能	48.1	48.8	46.1
	思考・判断・表現	51.3	51.9	51.0
	主体的に学習に取り組む態度			



## ★指導の工夫と改善

○良質な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域	<p>●4領域中で最も低いが、市や国と同様の正答率である。5の(1)は、16.2%の正答率で、かなり低い。物体にはたらく重力とつり合う力は分かっているが、その力の作用点を正しく理解していないのが原因と思われる。5の(3)の記述式問題も正答率が4割を下回り、市や国より5ポイント以上下回っている。無回答も3割を超えている。調べたいこととデータの取り方が結びついていないようだ。</p> <p>○1の(2)は78.8%と8割近い正答率である。対照実験は、調べたいこと以外は条件を同じにしておくことが、しっかりと理解されているようだ。</p>	<p>・文章読解力、特に文章から書き手の意図を正確に読み取る力を養っていく必要がある。小単元テスト等で文章を具体的に書くことを支援も含めて指導していきたい。</p> <p>・力を矢印で表すときに、力の作用点がどこになるのかを論理的に考えられるよう、書き方については表面上の理解にとどまらず、多くの力が接してはたらく力であり、物体間にはたらくことを実習などを通してしっかりと理解させていく。</p>
「粒子」を柱とする領域	<p>○3の(1)は77.8%と正答率が高いが、市や国に比べると4ポイント前後下回っている。化学式については、ある程度理解されているようだ。</p> <p>●3の(3)、7の(1)は、正答率が3割を切っている。特に7の(1)は、市や国を8ポイント前後下回っている。問題文の読解把握ができていないか、または履修した知識と実際の現象とが繋がっていないことが原因と思われる。</p>	<p>・化学分野の内容は、身近に様々な例があるにもかかわらず、教科書に出てくるような物質名として認識されていないことが多いため、苦手が大きいようだ。身近なものに関連付けながら学習に取り組ませたい。</p> <p>・見た目のイメージで何となく理解するのではなく、履修した知識を使って論理的に考えて理解していくことを、授業の中で繰り返し行わせていく。</p>
「生命」を柱とする領域	<p>○他の領域と比べると最も高い正答率である。</p> <p>●正答率は市より4.2ポイント、国より2.5ポイント下回っている。特に記述式問題の4の(1)と8の(1)において、その差が顕著であり、市や国と比べて7ポイント前後下回っている。問題文の読解把握や実験結果をもとにした論理的思考が弱いようである。また、他の記述式問題についても、誤答がかなりの割合を占めている。</p>	<p>・この分野は身近に実物があるので、これまで通り様々な体験を通して実感をともなう授業をしていきたい。知識については体験と結び付けて定着できるように取り組んでいきたい。</p> <p>・自分の言いたいことを聞き手が正確に把握できるように伝える力を養っていく必要がある。その力が文章を書く力の向上にも役立つはずである。小単元テスト等で文章を具体的に書くことを支援も含めて指導していきたい。</p>
「地球」を柱とする領域	<p>○4領域中で唯一、市や国の正答率を上回っている。2の(1)と6の(2)については、正答率が6割を超え、市や国を8ポイント前後上回っている。</p> <p>●6の(3)は正答率が4割を下回っているが、複数の平面図から空間的なイメージをすることが難しいようだ。また、2の(2)では4割程度の正答率だが、前線の種類とその周辺にできる雲の種類や特徴が結びついていないのが原因と思われる。</p>	<p>・履修した知識を活用して論理的に考えていく力を養うことを、支援しながら授業の中で繰り返し行わせていきたい。</p> <p>・複数の平面図から空間立体的なイメージを持つための実習を、支援しながら取り組ませたい。</p>